



胡馬北風

車いす陸上競技選手

ばば たつや
馬場 達也さん

(株日立ソリューションズ所属)

本市出身の馬場さんは、平成29年に株日立ソリューションズの車いす陸上競技部に入部し、本年6月に開催された第30回日本パラ陸上競技選手権大会では、100m・200m・800mの3種目で優勝し、3冠達成という輝かしい成績をおさめています。

今月は2020年東京パラリンピックの出場を目指す馬場さんに、今後の意気込みなどを語っていただきました。



私は、今でこそ車いす陸上競技を生活の中心としていますが、幼い頃はあまりパラスポーツに興味を持っていませんでした。中学2年生のときに両親に連れられてアイススレッジホッケー(現在のパラアイスホッケー)の試合を見学したことがパラスポーツとの出会いです。すぐにチームに入れてもらい、高校生のときには全日本強化指定選手にも選出されました。しかし、アイススレッジホッケーは障がいの程度によるクラス分けがなく、本格的に競技を続けることは選びませんでした。

当時はスポーツ選手になろうとは夢にも思っておらず、深川東高校卒業後は、旭川の専門学校で社会福祉士の資格を取得し、深川市役所に勤務していました。その間、夏の競技にも挑戦してみようと平成27年に車いす陸上競技を始めて間もなく、深川市で強化合宿をしていた日本パラ陸上競技連盟の練習を見学させてもらったことが転機でした。練習に混ぜてもらった上にアドバイスまでいただき、そこから競技にのめり込みました。



▲日本パラ陸上競技選手権大会のレース後に見せたガッツポーズ

そして本格的に競技に専念するため、平成29年に深川市役所を退職し、同年に株日立ソリューションズの車いす陸上競技部に入部しました。6月の日本パラ陸上競技選手権大会では、100m・

200m・800mの3種目で優勝という結果ではありましたが、レースの内容には決して満足していません。東京パラリンピックに出場するには、タイムをもっと縮めなくてはいけないため、12月までのトレーニング期間がとても重要だと考えています。

トレーニングには、リフレッシュすることも大事だと思っているので、年に3回程度は深川に帰省しています。もちろん帰省中もレーサー(陸上競技用車いす)によるトレーニングは欠かすことなく取り組んでいます。深川は自然が豊かで、ご飯もおいしいのでとてもリラックスして過ごすことができます。また、JR深川駅にエレベーターが設置されたり、駅前が無電柱化工事が進んでいたり、バリアフリー対応が進んでいることはとてもうれしく思います。



▲帰省中も陸上競技場でトレーニング

深川でトレーニングしている中でも、「頑張って」と声を掛けていただけるようになってきました。みなさんの期待に応えられるようになってきました。みなさんの期待に応えられるよう、最後まで諦めずに努力し、夢のパラリンピック出場を果たしたいと思いますので、応援よろしくお願いします。